

令和2年6月2日に、第1回丹波市立看護専門学校関係者評価委員会を開催した。

令和2年3月時点の自己点検・自己評価、その他学校運営について、5名の委員からは次のような意見があった。

#### 【Ⅰ教育理念・教育目的】【Ⅱ教育目標】

・地域住民として、地元の高校生を中心に市内の学生が増えたこと、市内就職者が増えたことが資料から読み取れた。今後も継続して、市内への就職を維持してほしい。都会と違って刺激が少ないことをどう補っていくかが課題である。就職先の病院のスタッフにも刺激のある現任教育を期待する。

#### 【Ⅲ教科課程経営】【Ⅳ教授・学習・評価過程】

- ・国家試験に合格するために指導していることが合格率に表れている。合格率 100%は養成所として第1の目標であり、頑張っ指導をお願いしたい。
- ・自分の思いを伝える力、まとめて伝えることはどの職種でも必要。本人が培っていくものだが、そこが学校で補えるようサポートしてほしい。
- ・国家試験合格率が高いことに安心した。
- ・臨時休校中は、オンライン授業に早く対応してもらって、不安が解消された。

#### 【Ⅴ経営・管理過程】

- ・入学したら市の奨学金がなくなっていた。

#### 【Ⅵ入学】【Ⅶ卒業・就職・進学】

- ・自己研鑽や自ら考える力が弱いというのは、卒後3年以内の人の多くにその傾向が強いと感じている。目先の事でいっぱい、まだ思考を広げて見る段階になっていないのではないか。
- ・地域柄、都会に行くのに距離がある、ステップアップするための刺激が少ない、終業後に勉強できる場所が少ないと思う。現任教育の中で視野を広げていくには、基礎教育との連動が重要だと思う。
- ・職場で新人指導をするにあたって、刺激の少ない地域で就職した新人に対して、日々の仕事の中でどのように研鑽させるのか、自分で調べる力をつけたり、刺激を与える責任があると感じている。
- ・自分の考えが文章にできるようトレーニングは必要だと思う。専門学校卒は周りに答えを求めるが、大学卒は自分で考えて表現するトレーニングを行っている感がある。
- ・前に進む力、問題意識を持つ力がない。施設面では、少人数で考えて発言する、他人の意見を聞いて自分の考えを述べる事ができる環境になったので、学ぼうとする気持ちが持てるように、学生の間にも道筋をつけていきたい。
- ・一人一人の違いに気づくことが難しく、個別性のある看護対応ができていないため、看護に深みや重みがない。実習時間が終わればそれでいいというような割り切った考え方をする学生もおり、感性を補える教育をしてほしい。

意見を踏まえて、学校運営をより一層発展向上させるべく取り組みを進めるものとする。

以下に、自己点検・自己評価の総評を掲載する。

令和2年6月 17 日

丹波市立看護専門学校

## 自己点検・自己評価 総評

### 【 I 教育理念・教育目的 】【 II 教育目標 】

#### ※ 資料1 参照

現代社会は、価値観の多様化、高学歴化、情報社会となっていることから、高度な医療技術や安全・安心な質の高い医療サービスの提供などが求められている。また、当校は市を設置主体として、「市内の医療機関や介護施設等への看護師確保対策」を目的に学校が設置されていることから、丹波市内や近隣の市町へ就職し、地域に貢献できる看護師の育成が求められている。

これらを踏まえ、教育理念では、丹波市の理念である『丹(まごころ)の里』を基盤として、①丹波市への愛着と誇りをもち、人としての思いやりのある看護師を育成していくこと ②丹波市内の病院を始めとして近隣の施設や地域で活躍できる看護師を育成すること ③的確な状況判断のもとエビデンスに基づいたアセスメントをし、対象に応じた看護が実践できる看護師を育成していくこと を掲げている。また、学校のポリシーを ①求める入学生像 ②カリキュラム編成の方針 ③卒業時の姿 ④教育の検証・評価の指針 として示し、到達すべき方向が理解できるようにしている。

教育理念、教育目的、教育目標は、教員・学生への指針となっており、令和元年度の卒業生の94%が兵庫県内に就職し、そのうち 62%が丹波市内に就職して、地域の医療に携わっている。

### 【 III 教育課程経営 】

#### ※ 看護教育課程概要 P5、P6、P9、P10 参照

教育課程は、基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5つから編成し、国家試験の受験条件である『97単位・3000時間以上』の学習時間を確保し、『101単位・3015時間』で構成している。

カリキュラムデザインは、学生が学習内容を理解しやすいように、漸進的カリキュラムデザインを選択し、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなど、基礎分野、専門基礎分野で学習したことを基盤として専門分野に繋げられるように考慮した配列としている。

はじめて医療に関する学習を進める上で、学習内容が理解しやすいように配置できていると考えるが、講師の都合で科目内容が思うように進まない場合もあり、専門分野の内容が先行することもある。逆志向での学習ではあるが、振り返りとなり問題はない。

### 【 IV 教授・学習・評価過程 】

#### ※ 資料1、看護教育課程概要 P13～P102 参照

授業科目に関しては、科目ごとにシラバスを作成し、科目目標、学習内容、学習方法、使用するテキスト、成績評価の方法を記載し、学生に提示している。学習が効果的に進むように、関連のある内容をまとまりとして配置しているが、講師の都合、科目の進度によって開講時期が離れてしまうことがある。できる範囲で科目のくくりを近い時期に開講できるように科目配置をする必要がある。

専門分野の授業科目は、領域別看護学の担当者が中心的に担い、年度末に担当する看護学の内容を評価することで、看護学の領域や関連科目の領域での科目の重複や不足を確認できている。また、各自が責任をもって1つの領域看護学を担当するため、タイムリーな変更ができています。

## 【 V 経営・管理過程 】

### ※ 資料7

設置主体が丹波市であることから、県からの補助金、市の税金・地方交付税、学生の入金金・授業料などを財源として運営が行われている。

2019年9月に校舎を新築移転したことで、学生がリラックスできるスペースや自己学習ができる場所が確保でき、教室、実習室のスペースも広くとることができ、学習環境は整っている。また、遠方から入学している学生に対しては、ワンルームマンション形式の学生寮を整備し、遠方からの学生を支援している。

実習施設は、同敷地内にある県立病院を中心に、公共交通機関で通学できる場所、通学時間が1時間以内の場所に確保し、学生の金銭的負担、時間的負担に配慮している。今後もできる範囲で近隣での実習施設の確保をすすめていきたい。

兵庫県の協力を得て、地域に貢献できる看護師の育成に尽力できている。

## 【 VI 入学 】

### ※ 資料2・2-1・2-2・2-3、看護教育課程概要 P2～P4 参照

学校が求める学生像のアドミッションポリシーを作成し、それに基づき、11月に地域枠入学試験、1月に一般入学試験を実施している。入学定員40名に対して、地域枠入試は5名程度、一般入試は35名程度の入学を許可している。試験実施までに入学試験委員会を開催し、前年度の評価を行い問題点や改善点を明らかにして、試験実施に関する内容を検討、決定している。

## 【 VII 卒業・就職・進学 】

### ※ 資料2・2-4、資料3、資料4、資料5、資料6 参照

教育理念・教育目的・教育目標に従ってカリキュラムを運営し、学則に基づいて単位が取得できた学生に対して卒業を許可し、専門士の称号を授与している。入学した学生のうち年間7～8%は退学しているが、その理由の殆どは、学習を進めた上で、この仕事が自分に合っているかどうかを見極め、自分の進む方向を変えるための方向転換である。

卒業生の就職病院への調査では、社会人基礎力に応じた内容で教育担当にインタビューを実施した。その結果、実践力があり、言われたことは実施できているが、自己研鑽をする力や自分で考えて行動する力が弱いことが見えてきた。新校舎建設に伴い、校内各所にラウンジを設置し、他者との語らいの中で自己理解、他者理解ができるように場所を整えた。また、グループディスカッションができる演習室・研究室を複数設置し、アクティブラーニングができる環境を整えた。このように、他者との意見交換をすることで、自ら考え、判断し、行動できるように、アクティブシンキングの思考の育成に力を入れ、弱みを強みに変換できるようする必要がある。

国家試験の合格率は、全国レベル、新卒レベルを上回っており、基礎知識は定着していると判断する。基礎学習が臨地での経験で伸びていくように、卒業後の教育に期待したい。